

上那賀中学校：「学力・学習状況」改善プラン(評価)

(1) 学力について

重点目標：「自ら学ぶ」という姿勢で日々の学習に取り組ませ、学んだことを活用した表現力の育成を目指す。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
・各教科に対する関心・意欲・態度を向上させる。	・関心・意欲・態度に関する評価が「B」以上の生徒が8割を超える。	・「チャレンジタイム」の時間を有効活用し、個別学習により「わかる喜び」を体験させることで学習意欲を高めていく。 ・1分前に着席し、無言で自習する。	・チャレンジタイムの有効活用ができていなかった。	・チャレンジタイムの時間を確実に確保し、継続的に意欲を高める指導を行う。 ・1分前着席をし、無言自習できるよう短学活等で意欲を高める指導をする。
			4 ③ 2・1	
・授業の中で、考えさせる場、表現させる場を設定し、言語活動の充実を図る。	・表現力に関する評価が各学期ごとに「B」以上のものが8割を超える。	・各教科において「思考力・判断力・表現力」を高めるような授業を意識して展開していく。 ・全ての教科で公開授業を実施し、生徒の立場に立った授業改善に取り組む。	・問題の答えだけでなく、考え方や何故そうなのかをあわせて発表させる授業を行った。 ・毎月1回全ての授業で公開授業を行った。	・表現するのが苦手な生徒に対しては、言い方の見本を黒板に提示するなどの工夫を行う。 ・授業の中だけではなく、短学活の1分間スピーチや、朝会の目標の発表など日々の細かなところから高めていく必要がある。
			4 ③ 2・1	
・読書を推進し、意欲的に読書する態度を身につけさせる。	・朝の読書タイム以外にも読書する生徒が8割を超える。	・読書冊数調べを行い、グラフを図書室に掲示する。 ・図書委員が図書日より「おすすめの本」を紹介する。	・休み時間に自主的に読書できている生徒もいるが、個人差は大きい。 ・図書日より「おすすめ本」の紹介はほぼできていた。	・朝の10分間読書を大切に、本を読む姿勢を定着させる。
			4 ③ 2・1	

(2) 学習状況について

重点目標：家庭学習の習慣を確立し、主体的・計画的な学習ができるようにする。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
・家庭学習を充実させ、授業に意欲的に取り組ませる。	・各学年で設定された週家庭学習目標時間に7割以上の生徒が達する。	・家庭と連絡を密に取り合い、家庭学習の定着に取り組む。 ・家庭学習の手引きを作成し、学習の方法を提示する。	・個人差が大きく、なかなか家庭学習が定着しない生徒もいる。	・学期ごとに家庭学習の手引きを確認し、さらに手引きを有効活用していく。 ・自主学習ノートの点検や、プリントの提出により毎日の取り組みを残していく。
			4・3 ② 1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。